

雨の降り方と強さ(気象庁)

	1時間雨量(mm)	予報用語	人の受けるイメージ	人への影響
	10以上～20未満 	やや強い雨	ザーザーと降る。	地面からの跳ね返りで足元がぬれる。
	20以上～30未満 	強い雨	どしゃ降り。	傘をさしてもぬれる。
	30以上～50未満 	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る。	
	50以上～80未満 	非常に激しい雨	滝のように降る(ゴーゴーと降り続く)。	傘は全く役に立たなくなる。
	80以上 	猛烈な雨	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる。	

熱帯低気圧

熱帯または亜熱帯地方に発生する低気圧の総称で、風の弱いものから台風やハリケーンのように強いものまであります。

1時間雨量(mm)	野外の様子	災害発生状況
10以上～20未満 	地面一面に水たまりができる。	この程度の雨でも長く続く時は注意が必要。
20以上～30未満 		側溝や下水、小さな川が溢れ、小規模の崖崩れが始まる。
30以上～50未満 	道路が川のようになる。	山崩れ・崖崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要。都市では下水管から雨水があふれる。
50以上～80未満 	水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる。	都市部では地下室や地下街に雨水が流れ込む場合がある。マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。
80以上 		雨による大規模な災害の発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要。

台風

北西太平洋に存在する熱帯低気圧のうち、低気圧域内の最大風速がおよそ17m/s(34ノット、風力8)以上のものを言います。

3 国民保護・大規模テロ等の対応

① 国民保護とは？

平成 16 年 9 月に施行された国民保護法に基づき、武力攻撃や大規模なテロの発生が迫り、又は発生した場合には、区は国や都、関係機関等と連携協力し、住民の避難や避難住民の救援などの国民保護措置を実施します。

【想定される事態】

武力攻撃事態	大規模テロ等（緊急対処事態）
① 着上陸侵攻 ※	① 危険物質を有する施設 （ガスホルダー等）への攻撃
② ゲリラや特殊部隊による攻撃	② 大規模集客施設等 （ターミナル駅、列車等）への攻撃
③ 弾道ミサイル攻撃	③ 大量殺傷物質 （炭そ菌、サリン等）による攻撃
④ 航空攻撃	④ 交通機関を破壊手段 （航空機による自爆テロ等）とした攻撃

※侵攻国が我が国の領土を占領するために上陸等して行う武力攻撃

column

【全国瞬時警報システム（Ｊアラート）とは？】

緊急地震速報や弾道ミサイル攻撃情報といった、対処に時間的余裕のない事態が発生した場合、国からの緊急情報を、区内の防災行政無線や携帯電話等に配信される緊急速報メールによりその内容を瞬時に伝達する仕組みです。

【伝達する内容】

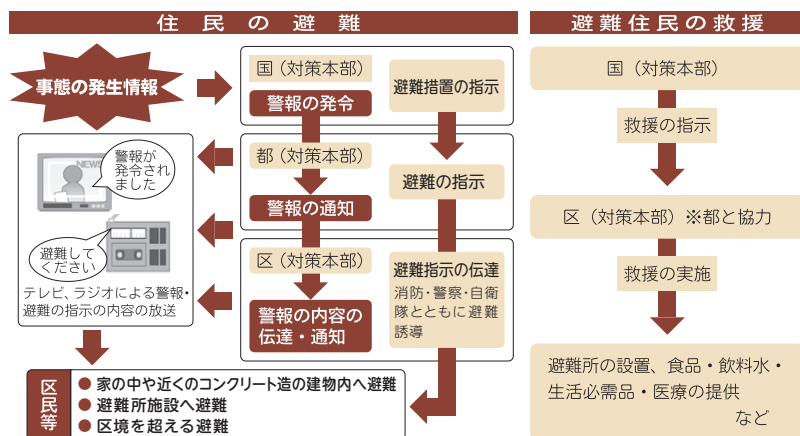
緊急地震速報（推定震度 5 弱以上）、国民保護に係る情報等。

【伝達されたら】

テレビ、ラジオをつけ、情報に注意し、慌てずに落ち着いて行動してください。
なお、緊急地震速報の場合は、身の安全を図り、揺れが収まってから行動してください。

事態発生時の主な国民保護措置

事態発生時は下図のように避難体制が取られますので、流れを知っておきましょう。



地域のみなさまのご協力が必要です

■ 住民のみなさまへ

- ・避難時には、高齢者や障害者などの要配慮者の支援をお願いします。
- ・避難先では、都や区が行う飲食物の配給などに協力をお願いします。

■ 事業所のみなさまへ

- ・警報や避難の指示が出されたら、従業員や施設内の方々への情報伝達、避難誘導を行ってください。
- ・普段から施設の危機管理の強化に努めてください。
- ・突然屋外で事態が起きた場合は、施設内への緊急誘導にご協力ください。

■ 自主防災組織やボランティアのみなさまへ

震災時と同様に、自主防災組織やボランティアの皆さんの以下のような自主的な活動が期待されています。

- ・避難住民の誘導への協力
- ・救援への協力
- ・消火、負傷者の搬送、被災者の救助への協力
- ・保健衛生の確保への協力

② 事態発生時の行動

① 警報が発令されたら…？

【屋内にいる場合】

- ・ドアや窓をすべて閉める。
- ・ガス、水道、換気扇を止める。
- ・ドア、壁、窓ガラスから離れて座る。

【屋外にいる場合】

- ・近くの建物や地下に避難する。
- ・建物などに避難できなければ、物陰に隠れ身を伏せ、頭を守る。
- ・自動車の運転時は、道路外の場所に車両を止める。道路に車を置いて避難する場合は、道路の左端に沿ってキーをつけたまま駐車する。



② 情報収集

- ・テレビ、ラジオ、防災行政無線や緊急速報メールなどを通じ、落ち着いて情報を収集する。



③ 避難の指示が出されたら…？

指示にしたがって、以下の避難先に落ち着いて避難します。

- ・屋内や近隣の避難所施設等への避難
- ・被害発生施設から屋外への避難
- ・区や都の区域を越えた遠方への避難など

自宅からの避難の際には、以下の点に留意してください。

- ・家の戸締り、ガスの元栓の閉鎖などを確認
- ・運転免許証など身分証明書の携行
- ・頑丈な靴、長ズボン、長袖シャツ、帽子などの着用
- ・その他非常持ち出し品の持参

③ テロ発生時の注意点

爆発が起こった場合

- ・姿勢を低くし、身の安全を守ります。
- ・周囲の物の落下が止まるまで、頑丈なテーブルなどの下に身を隠します。
- ・爆発が収まったら、爆発の起こった建物などから離れ、テレビやラジオなどで情報を収集します。

核物質が用いられた場合

- ・閃光や火球は失明のおそれがあるので、絶対に見てはいけません。
- ・遮蔽物の陰に身を隠し、地下施設やコンクリート建物に避難します。
- ・屋内にいる場合は、窓に目張りをして密閉し、窓のない部屋に移動します。
- ・汚染された疑いのある水や食物の摂取は避けます。
- ・たとえ外傷がなくても、医師の診断を受けましょう。

化学剤、生物剤が用いられた場合

- ・口や鼻をハンカチなどで覆い、できるだけ空気を吸わないようにして、その場から直ちに離れます。
- ・密閉性の高い屋内や汚染・感染のおそれのない安全な地域へ避難します。
- ・屋内にいる場合は、窓に目張りをして密閉し、窓のない部屋に移動します。
- ・汚染された服や靴などはビニール袋に密閉します。
- ・水と石けんで手、顔、体をよく洗います。

④ 武力攻撃における注意点

弾道ミサイルによる攻撃

- ・ 弾道ミサイルが発射された時は、上空通過・着弾が予想される地域にサイレンなどが流されます。
- ・ 近隣の堅ろうな建物か地下へ避難してください。もしも近くに建物がなければ物陰に身を隠すか地面に伏せ、頭部を守ってください。屋内にいる場合は、窓から離れるか、窓がない部屋へ移動してください。

ゲリラや特殊部隊による攻撃

- ・ すみやかに屋内に避難します。

着上陸進攻（侵攻国が我が国の領土を占領するために上陸等して行う武力攻撃）

- ・ 避難経路や手段について行政機関の指示にしたがい、すみやかに行動します。

航空攻撃

- ・ 近隣に堅牢な建物や地下街などがあれば、そこに避難します。

column

【緊急一時避難施設とは？】

ミサイル攻撃等の際に爆風等からの直接の被害を軽減するための一時的（1～2時間程度）な避難先として有効なコンクリート造り等の堅ろうな建築物や地下施設（地下駅舎、地下街、地下道等）。

世田谷区においては、区立小中学校や区立施設等を中心として緊急一時避難施設が指定されています。詳しくは、世田谷区ホームページにてご確認ください。